

17日 水曜

マルコ

6:45 それからすぐに、イエスは弟子たちを無理やり舟に乗り込ませ、向こう岸のベツサイタに先に行かせて、その間に、ご自分は群衆を解散させておられた。

6:46 そして彼らに別れを告げると、祈るために山に向かわれた。

6:47 夕方になったとき、舟は湖の真ん中にある、イエスだけが陸地におられた。

6:48 イエスは、弟子たちが向かい風のために漕ぎあぐねているのを見て、夜明けが近づいたころ、湖の上を歩いて彼らのところへ行かれた。そばを通り過ぎるおつもりであった。

6:49 しかし、イエスが湖の上を歩いておられるのを見た弟子たちは、幽霊だと思い、叫び声をあげた。

6:50 みなイエスを見ておびえてしまったのである。そこで、イエスはすぐに彼らに話しかけ、「しっかりと歩きなさい。わたしだ。恐れることはない」と言われた。

6:51 そして、彼らのいる舟に乗り込まれると、風はやんだ。弟子たちは心の中で非常に驚いた。

6:52 彼らはパンのことを理解せず、その心が頑なになっていたからである。

6:53 それから、彼らは湖を渡ってゲネサレの地に着き、舟をつないだ。

6:54 彼らが舟から上がると、人々はすぐにイエスだと気がついた。

6:55 そしてその地方の中を走り回り、どこでもイエスがおられると聞いた場所へ、病人を床に載せて運び始めた。

6:56 村でも町でも里でも、イエスが入って行かれると、人々は病人たちを広場に寝かせ、



せめて、衣の房にでもさわらせてやってくださいと懇願した。そして、さわった人たちはみな癒やされた。

イエス様は多くの人をあわれんで、様々は働きをなさいました。弟子たちにとっては、主がそばにおられないということが、不安や恐れの原因になりました。常に愛を持ってそばにいて下さるのですが、そのイエス様が遠く感じてしまったようです。

そして彼らには困難が襲いました。夜明け前の闇の中で、「向かい風のために漕ぎあぐねてい」る様子は、私たちの人生のようです。そのような時に主への信頼が明らかになります。

弟子たちのように主になんとかして欲しいのに、問題ばかり見て、主がいつもそばにおられることを知りません。主が「しっかりと歩きなさい。わたしだ。おそれることはない。」と力強く言うてくださる声を聞きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

